

第1回新宿区屋外広告物に関する地域別ガイドライン（神楽坂地区）ワークショップ

■日 時 平成29年8月25日（金） 17:00~19:45

■場 所 東京理科大学森戸記念館 第1会議室

■参加者 25名（地元の方々、神楽坂を知る地域外にお住まいの方々、学生、公益社団法人日本サインデザイン協会（ガイドライン策定支援業務委託受託者）、新宿区都市計画景観・まちづくり課）

■目 的

ガイドラインの検討にあたり、参加者等によるアンケート調査を行い、神楽坂のイメージを共有するとともに、屋外広告物のあり方について検討する。

■内 容

- 神楽坂地区で実際に提出されている屋外広告物の実例写真をもとに、「わかりやすい」「にぎやかだ」「粋である」「好感がもてる」等、6つの評価項目を設けアンケートを実施
- それぞれの屋外広告物に対する印象を調査し、どのようなものが神楽坂地区に相応しいのかについて意見交換

■主な意見

- 表通りと路地では求められるものが違うため、同等に扱うべきではないのでは。
- 神楽坂全域で一つのイメージを作るのか、地域ごとに分けてイメージを作るのかを考える必要があると思う。
- 3階以上の部分への広告の表示や照明は歩行者には高すぎるので不要だと思う。
- 外国の例を含め、2階までに表示を抑えているまちは幾分統一感があるという傾向がある。
- 路上の置き看板は良くない。
- 神楽坂下交差点から見た景観は甚だ残念である。屋上広告や高層部の壁面広告がないだけで随分と変わるのでは。

○まとめ

今回の意見を踏まえ、第2回ワークショップではガイドラインの方向性について検討する。

第2回新宿区屋外広告物に関する地域別ガイドライン（神楽坂地区）ワークショップ

■日 時 平成29年11月16日（木） 14:30~16:30

■場 所 東京理科大学森戸記念館 第3会議室

■参加者 19名（地元の方々、神楽坂を知る地域外にお住まいの方々、学生、公益社団法人日本サインデザイン協会（ガイドライン策定支援業務委託受託者）、新宿区都市計画景観・まちづくり課）

■目 的

第1回ワークショップにおける意見を踏まえ、具体的な方策案について意見交換を行う。

■内 容

- 地区を複数のエリアに区分し、各エリアの方針や誘導方策を提案
- 方策を適用した場合のシミュレーション写真を提示し、実際にどのように景観が変化するか確認

■主な意見

- エリア区分や各エリアの方針は基本的に賛同できるが、それ以前の問題として、神楽坂地区全体の方向性やコンセプトを決めることが重要。
- 神楽坂は出店競争が激しいため、近年では路地でも高彩度の広告が増えている。一方で、コーポレートカラーの問題もあり、両面でのアプローチが必要では。
- 色彩とサイズと設置場所をトータルで検討することが大切である。
- ガイドラインを誰がどのように運用していくかが重要。区にすべて任せるのではなく、ガイドラインを運用するための地元による協議組織があると良い。

○まとめ

今回の意見を踏まえ、議論を検討委員会に移し引き続き検討を進めていく。